

大学教育における生成 AI 活用

中井 俊樹(愛媛大学 教育・学生支援機構 教授)

講師略歴

専門は高等教育論および人材育成論。1998年に名古屋大学高等教育研究センター助手、同准教授などを経て2015年より現職。学長特別補佐、教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、学習支援コモンズ長、教職員能力開発拠点代表者を担当。愛媛大学の教育の質向上に向けたFD、SD、IRを始めとした諸活動の企画、実施、評価に加え、教職員能力開発拠点の活動として他機関における研修や組織開発支援を行う。大学教育、大学教員、大学の管理運営、看護教育などのテーマの書籍多数。

プログラム概要

生成AIの普及によって、専門的な知識は、大学の外でも容易に得られるようになりました。これまで大学という場に足を運び、教員の授業を通じて段階的に理解してきた内容が、いまでは生成AIとの対話によって短時間で把握できるようになっています。このような変化は、知識の獲得という点において、大学が担ってきた役割の前提そのものを揺るがしているといえるでしょう。大学で学ぶことの意味や、授業に参加することの価値が、これまでとは異なる観点から問い直され始めています。このような時代において、大学は何を提供する場として存在し続けることができるのだろうか。

本研修では、生成AI利用の意義、教育実践上の課題、大学の組織的な課題、生成AI活用の指針、プロンプトの設計、出力結果の評価と活用などを踏まえ、生成AIを教育と学習の改善の手段として活かすための課題と具体的な方法を考える機会を提供します。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

教育における生成AIの活用に関心のある教職員

到達目標

1. 大学教育における生成AI活用の意義と課題を、自分の言葉で説明できる。
2. 生成AIを活用する際のさまざまな課題を理解した上で適切に活用することができる。
3. 目的に応じてプロンプトを設計し、生成AIの出力を批判的に検証し編集することができる。
4. 生成AIの普及を踏まえた大学の組織的な対応について説明できる。